

第15回『中学生の翼』 帰国報告

今年度、第15回目となった中学生海外派遣事業「中学生の翼」に参加した団員並びに引率者は、10日間の研修を終え、7月30日に無事帰国しました。

団員は、米国でのホームステイ体験を通し、英会話の実践や自立心を培いました。

団長並びに団員の帰国報告を紹介します。

帰国報告

団長（小野中学校長）

矢内 今朝見

「平成18年度中学生の翼」の団員15名と引率者3名は、去る7月21日より30日まで、米国グリーンロック町にホームステイし、研修を行ってまいりました。

本事業が節目の15回目を迎えたことから、日程の前半を穴戸町長にも同行していただきました。

以下、概要を報告いたします。

21日、町議会議長、助役、教育長、団員の家族のみなさんに見送られ、公民館前を定刻出発。私たちを乗せたコンチネンタル航空機は、機体整備のため一時間遅れで成田空港を離陸。

目的地「ニューアーク空港までの飛行距離は1万819キロメートル、およそ11時間の飛行。」

〈これより現地時間〉

21日。16時16分、ニューアーク空港着陸。激しい雷雨のため、

機内に一時間足止め。

緊張の中、入国審査、税関を無事通過。到着口ではステイブン（クリスティンの夫）が出迎えてくれた。

19時、バスで、グリーンロック町へ向け出発。異国の風景に団員たちは興奮気味。

約一時間でグリーンロック町に到着。予定より二時間遅れたが、ヴァン・キューレン町長をはじめ、ホストファミリーが歓迎会場の町ホールで出迎えてくれた。

軽い食事の後、キューレン町長は日本語で歓迎の言葉を述べ、穴戸町長は英語で応えた。交流15年を記念し、グリーンロック町から記念の盾が、小野町からは富士山と夏井本桜の写真が贈られた。

その後、ホストファミリーと団員が紹介され、いよいよホームステイの始まり。

22日、23日。各ホストファミリーの計画による自由行動。英

語だけの生活に軽いホームシックを味わった団員もいたが、全員元気。

24日。バスで二時間、ホストファミリーと共にポイントプレセントビーチを訪れた。初めての大西洋の波に誰もが興奮。

25日。グリーンロック町内見学。町立図書館、救急隊本部、消防署、警察署を訪問。積極的に質問する団員の姿も。町のホールでの昼食時には、バーゲン郡の郡長さんもおいでくださった。

午後は、グリーンロック中学校、高校を見学。メモを取りながら熱心に説明に耳を傾ける団員の姿に、説明役の教頭先生もしきりに感心。

26日。ニューヨーク市内見学。最初に国連本部を訪問。厳重なセキュリティチェックを受け、日森三世の案内で安保理議場や総会議場を見学し、国連の役割についても理解を深めた。

セントラルパークで昼食をとり、メトロポリタン美術館を見学。日本人のボランティアガイドの案内で、短時間であったがその素晴らしさを実感。

タイムズスクエアの混雑振りにも驚いた。

レストランで、ボリュームたっぷりの夕食。アフリカンドラムショーを見学した後、ニューヨークの美しい夜景を見ながら帰路に。ハードな一日だった。

27日。ニューヨークのシンボル「自由の女神」を見学。米国の歴史にも触れ、忘れることのできない思い出となった。

午後、お別れ会の会場であるグリーンロック市民ホールに到着。午後6時、お別れ会が始まった。キューレン町長は所用のため出席されなかったが、ナップ議長が出席された。

バイキング料理を楽しみながら交流を深め、団員全員で歌を三曲（小野中の校歌、上を向いて歩こう、そして英語でカントリロード）披露した。全員が心をついに気持ちを込めて大きな声で歌った。会場は大きな拍手に包まれ、団員の顔には自然と笑みがこぼれた。

団員からホストファミリーへお礼のメッセージと花束を贈り、記念撮影。明日はお別れということで、涙を流す団員も。団員に対する賛辞の言葉をわざわざ団長に伝えてくれたホストもあった。

感動的なお別れ会であった。28日。午前、クラフトスクールで「思い出アルバム」の制作に取り組んだ。続きは、日本で。午後は、出発準備。

19時、ホストファミリーと共にグリーンロック高校駐車場に集合。全員で記念写真を撮り、涙ながらに別れを惜しんだ。バスの中で、号泣する団員の

姿が忘れられない。

その夜は、ニューアーク空港近くのホテルに宿泊。

29日。7時にホテルロビー集合。空港に向かった。

出国手続きは比較的容易に終了し、搭乗を待つ団員たちは元気そのもの。

12時に空港を離陸。

日本時間、30日、14時17分、成田空港に着陸。

到着ロビーで、公民館長と十日ぶりに再会。帰路のバスの中でも団員は、すこぶる元気。

町長、教育長をはじめ、多数の出迎えを受け、無事帰国。

家族と離れ、米国の家庭の一員として生活した経験は、15名の団員にとり、かけがえのない貴重な宝物となった。

穴戸町長をはじめ関係者の方々、そしてこの事業のコーディネーターを務めていただいたクリスティン夫妻、そしてホストファミリーのみなさんにあらためて感謝し、帰国報告いたします。

